

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090900057		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ伊那		
所在地	長野県伊那市境1845番地		
自己評価作成日	平成22年8月17日	評価結果市町村受理日	平成23年6月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>その方の思いをしっかりと受け止め、共に喜び、不安は和らげてさしあげられる、心のもった暖かいケアの提供に努めております。調理や掃除などの家事や、趣味の活動等、お一人お一人の有している力を活かしていただけるよう、活躍の場を多く設けるようにしております。より良いケアと、生活の質の向上に向け、職員同士が意見を出し合い、どんなことも話し合うようにしています。職員が、チームとしてひとつにまとまり、笑顔の溢れる、暖かい雰囲気ホームづくりを目指して頑張っております。</p>
--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090900057&SCD=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームニチイのほほえみ伊那は、今年5月に5周年を迎え、地域、家族、ボランティア参加のもと5周年祭を開催した。「誠意」「誇り」「情熱」を以って豊かな人間関係を目指す法人の理念の下、介護の質の向上を目指したホーム独自の理念を掲げ、地域に開かれた事業所になるよう日々取り組まれている。利用者に対しては「お客様」に接するように、一人ひとりを尊重した態度と丁寧な言葉で対応し、日頃からプライバシーと誇りを大切にされている姿勢がうかがえた。またホームの協力医の理解により、看取りケアも積極的に行なわれていることは、本人と家族の安心に繋がっている。法人による施設の新設等に伴う職員の異動も行なわれているが、受け持ち制により本人の様子を手紙やアルバムできめ細かく伝えることで、利用者、家族と職員間の信頼関係を築いている様子がうかがえた。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成22年10月5日		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(駒ヶ岳)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(仙丈)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の経営理念と共に、当グループホーム独自の理念をフロアや会議室等に掲示し、ホーム会議等で共有化に努めている。	母体法人の理念と共に、事業所独自で作上げられた理念を各フロアに掲げ、職員に共有、周知されている。事業所理念は、介護サービスに従事する上で常に立ち戻る原点を言語化したものであり、日々の利用者への関わり際には、意識して取り組まれている様子がうかがえた。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺地域の皆様との挨拶を徹底している。ホーム内行事へのご招待や、地区催し物への参加で交流を深めている。	管理者は、地域との接点を持てるよう、地区長への働きかけや町会への加入など、徐々に開かれた事業所になるよう取り組まれている。	「暮らし」は事業所の中だけで完結するのではなく、日常的な地域との相互関係で成り立っている。今後更に、保育園、学校、地域の行事に参加したり交流を図るなど、利用者が地域とつながりながら暮らしていけるよう取り組まれることを望む。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族または地域の方々などから、介護に関する相談を受けた時には、随時相談にのってさしあげるようにしている。社協主催の施設見学会等受け入れており、認知症ケアについて理解を深められるようにしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容は直ちに職員で共有し改善、向上に努めている。	運営推進会議は、隣接する小規模多機能施設と合同で開かれ、家族代表、地区長、高齢福祉課職員、地域包括職員等参加のもと、2ヶ月に1回のペース行なわれている。	運営推進会議は、地域や市の理解と支援を得るための貴重な機会である。検討事項についての話し合いや、状況報告だけにとどまらず、避難訓練やホームの行事に併せて開催するなど、利用者の状況を参加者に知っていただき、ケアの実情への理解を得られるよう取り組まれることを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ報告、連絡、相談を実施。ご指導に対しては直ちに検討実施できるよう努めている。ホームの5周年祭へのお誘いなど、気軽に訪ね合える関係となるよう、少しずつではあるが取り組んでいる。	市の職員は運営推進会議に参加されるほか、担当者が交代した際は施設の見学に見えるなど、交流が図られている旨うかがった。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所内の研修を通して理解を深め、日常ケアの中でも職員各自が自覚を持って取り組んでいる。	毎年度の研修を通して、職員は身体拘束をしないケアの理解と実践に努められ、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するよう取り組まれていた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事務所内の研修を通じて理解を深め、利用者の身体や精神面に異常が無いが、常に目を配っている。小さな変化であっても報告書を作成し、カンファレンスで風通しを良くしている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内会議において成年後見制度についての研修を行い、理解を深める努力をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書によって説明し、疑問の解消をしている。後日でも問合せをして頂けるようお伝えしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、電話等でご家族からの意見を頂けるようにしている。事務所内の相談窓口をお知らせしている他、自治体、県への相談も説明している。アンケート方式の顧客満足度調査も実施し、運営に反映できるよう努めている。	担当者制により、担当職員が家族との窓口となることで、家族とのコミュニケーションが図られている。家族の満足度調査も行なわれ、結果は会議で話し合われている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で発言の場を設けたり、各委員会で意見交換の報告をしている。個別の面談を設けたり、意見を言い易い環境作りに取り組んでいる。	職員はケア委員会、環境整備委員会、献立委員会などに属したり、毎月の会議やミーティングなどで意見や提案を述べる機会が設けられている。管理者と職員の日頃からのコミュニケーションも図られている様子がうかがえた。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>ステップアップ制度や、個々の実績で昇給があり、それが各自の向上心に繋がっている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>段階に応じて研修受講を進めて実施している。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者の研修を受け入れ、交流の機会を得ているが、サービス向上の為に深い交流を持ちたい。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面接やその後の相談により、安心して頂けるような環境作りを心がけると共に、コミュニケーションを多く取れるように努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面接や相談時に、ご家族の不安や要望をお聞きし、ケアプランに反映されるようにしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居希望の相談時、ご本人・ご家族にとって一番よいサービス方法の1つを提案させて頂いている。</p>		

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	不安の訴えのある時は、寄り添って話を聞いたりスキンシップでコミュニケーションを取っている。季節毎の行事等を一緒に行ない、慣習や料理を教えて頂く等協力しあえる関係築ける様努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の中でご本人が疑問に思ったり困った事、又出来たこと、お話して下さった事をお知らせし、理解を深めて頂けるよう努めている。面会等一緒に過ごして頂ける時間を大切に、共に支援していく関係づくりに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊は制限することなく、出来る限りご家族や馴染みの方との時間を楽しんで頂けるように支援している。	今までの人間関係を断ち切らないよう、利用者の使用できる電話回線を設置し、馴染みの方への電話連絡が自由にできるよう取り組まれている。一人ひとりの生活習慣や、つながりを継続できるような支援に心がける姿勢がうかがえた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ・食事作り等は分担してお願いし、お互いに声をかけ助け合うことで交流を深めて頂けるよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙を差し上げる等、関係を続けるように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望を理解できるよう、寄り添って触れ合える時間を取るよう努めている。カンファレンスを適宜開き、話し合いの場を設けている。	利用者のさりげないつぶやきを書き留めるなど、職員は一人ひとりの思い、暮らし方の希望、意向の把握に努めながらケアを行っていた。意志疎通が困難な方には、家族への確認により情報を得たり、カンファレンスを行い検討している旨うかがった。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより、十分に情報を得て全職員で情報共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態等について、その日のうちに対応できるよう申し送りを行ない、安心して生活して頂けるよう職員全員で協力している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて、本人・家族の思いやケアの内容等、望む暮らしの実現に向け話し合い、ケアプランを作成している。	カンファレンスでは本人や家族の思いや意向を反映できるよう話し合い、受け持ちの職員の意見も参考に、計画作成者がケアプランを作成していた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、特記事項は申し送りにて情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	どのような要望にも、出来る範囲で対応できるよう考慮し、柔軟な姿勢を心がけている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の理解を深め連携が図れるよう努めている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>提携医に月2回訪問診療して頂いている他に、ご家族希望のかかりつけ医には適宜受診していただいております。</p>	<p>事業所の協力医により、月2回の訪問診療を受診でき、健康管理が行なわれている。本人や家族の希望するかかりつけ医へは、家族の付き添いにより受診されている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>定期の訪問診療以外でも、利用者に状態の変化等見られる時は随時連絡相談を行い、必要に応じて診療が受けられるようにしている。</p>	/	/
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時、日常の様子等を情報提供している。病院関係者とは、随時相談を行っており、連携を図るようにしている。</p>	/	/
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご入居時、終末期の在り方についてお話を伺うようにしている。重度化した場合はその都度提携医・ご家族と相談し、方針を職員全員が共有するようにしている。</p>	<p>入居の際に、重度化や看取りの対応についての本人や家族の希望を聴取し、できる限りニーズに対応できるよう取り組まれている。提携医のターミナルケアへの理解と協力のもと、看取りの実績があった旨をうかがった。</p>	<p>終末期の対応については、医療連携体制が整っていることにより、本人と家族が安心して納得した最期を迎えられるような体制が構築されている。今後は重度化や終末期の指針や同意書の見直し、職員研修など、更に質の向上に向けた取り組みを期待する。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署から講師を招いて普通救命講習会を実施し、実践力を身に付けられるよう努力している。</p>	/	/
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署立会いの下、避難訓練を年2回実施したり、防火管理者を中心に火災予防についての話し合いを持つなど、災害対策の意識を高めていけるよう取り組んでいる。災害時における協定書の締結について、現在検討中。</p>	<p>消防署立会いにより、避難訓練が行われているほか、運営推進会議でも話し合いや地域への協力の呼びかけが行なわれている。しかし、2階の利用者の重度化により、避難方法や避難の優先順位などの検討課題があると思われる。</p>	<p>今後も継続して災害時の具体的な方策を昼夜通して検討されると共に、自治会や運営推進会議などで地域の協力体制を呼びかけたり一緒に訓練を行うなど、実践的な取り組みを期待する。また、避難経路の確認や消火器の使い方、備品の準備、緊急時の連絡訓練など日常的な取り組みが望まれる。</p>

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは敬語を使い、本人の尊厳が守られるよう配慮すると共に、一人ひとりの思いを否定せずありのままを受け入れるよう努めている。	職員は、利用者はおお客様であると考え、一人ひとりの尊厳ある姿を大切にしよう言葉掛けや対応に配慮されていた。プライバシー保護の研修や勉強会にも、積極的に参加されている様子が見えた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者がイエス、ノーを言える言葉かけをしたり、思いを伝えやすい環境づくりを心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせて日々過ごして頂けるよう支援している。一緒に散歩に出かけるなど、出来る限り希望に添った対応を心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は定期的に訪問美容院を利用したり、馴染みの美容院に行っている。洋服・アクセサリー等は選んで頂き、好きな物を身につけて頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューに季節のものや利用者の好み・希望を取り入れている。食事の準備・下ごしらえ・片付けが一緒に行なえるようにしている。	訪問当日は、季節に合わせてマツタケご飯のメニューであった。利用者と職員はマツタケの話題で談笑され、和やかな食事風景であった。行事の際は五平餅作りや焼きそば作りなど、利用者が調理に無理なく参加できるような工夫も行なわれていた。	法人の規則により、職員の食材料費の負担や休憩時間等との兼ね合いも課題ではあるが、職員と利用者が同じテーブルを囲んで同じ食事を楽しめる環境作りについても検討されることが望まれる。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容・水分量についてそれぞれに合った管理を行なっている。体調に合わせたメニューに変更する等臨機応変に対応している。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに添った口腔ケアを毎食後行うよう努めている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表やご本人の様子から排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が行えるようご本人に合わせた対応、支援に努めている。	オムツやパットの交換やトイレの誘導は、利用者の自尊心に配慮し、羞恥心や不安を軽減するようさりげない支援がされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトを含めた十分な水分を摂って頂いたり、食物繊維の多い食材をメニューを取り入れる等、工夫をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に添って、出来る限り好きな時に入浴できるよう努めている。入浴剤の使用等気持ちよく入浴して頂けるよう工夫している。	菖蒲湯や柚子湯など、季節にあわせて入浴を楽しめるよう工夫をしたり、相談しながら個別の入浴支援が行なわれている。入浴を嫌がる利用者へは、手浴、足浴をしながら声掛けで入浴したい気持ちを誘うなど、利用者の抵抗感を軽減できるよう支援されている様子がうかがえた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のライフスタイルに合わせ個別の睡眠援助に努めている。寝付けない方は話をお聴きしたり、温かい飲み物を飲んでいただいたり、安眠につながるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局から個別の調剤情報と指導を頂いている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの特技を活かせる場面を、暮らしの中に取り入れるようにしている。月ごとの行事や季節に応じた活動を企画し、楽しく過ごして頂けるよう取り組んでいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて散歩等屋外で過ごせる機会を設けている。ご家族にも協力得て、出来る限り行きたい所に出かけられるようにしている。	ホーム周辺は田畑が広がり、車椅子でも出かけられる散歩コースがあることで、日常的に短時間でも戸外に出て、利用者が生き生きと過ごされている。また、職員の付き添いにより、買い物や地区の植樹祭への参加などの外出支援も行なわれていた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に一括管理させて頂いているが、ご希望により買い物等に出かけ、ご自分でお支払して頂けるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望がある時は、都度ご家族に電話をかけられるように支援している。ご友人に宛てに書かれた葉書きを一緒にポストに出しに行ったりしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに昔懐かしい曲を流したり、季節に合わせた装飾したり、五感に心地よく感じられる環境作りを心がけている。	廊下や居間の壁には、利用者と共に作成した季節の飾りつけが展示され、フロアに流れる音楽に合わせて利用者が歌を口ずさむなど、温もりのある共用空間となっていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで皆と一緒に過ごしたり、居室でゆっくりと過ごしたりと、本人の気分に合わせた居場所づくりに努めている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものや、馴染みのものを持ってきて頂き、居心地の良い居室づくりを心がけている。	居室には、寝具やテレビ、写真、位牌など思い出の品が持ち込まれ、プライバシーを大切にしながら居心地の良い環境になるよう整備されていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立を妨げず、本人の力を活かせる生活環境となるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の経営理念と共に、当グループホーム独自の理念をフロアや会議室等に掲示し、ホーム会議等で共有化に努めている。	母体法人の理念と共に、事業所独自で作上げられた理念を各フロアに掲げ、職員に共有、周知されている。事業所理念は、介護サービスに従事する上で常に立ち戻る原点を言語化したものであり、日々の利用者への関わりの際には、意識して取り組まれている様子がうかがえた。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	周辺地域の皆様との挨拶を徹底している。ホーム内行事へのご招待や、地区催し物への参加で交流を深めている。	管理者は、地域との接点を持てるよう、地区長への働きかけや町会への加入など、徐々に開かれた事業所になるよう取り組まれている。	「暮らし」は事業所の中だけで完結するのではなく、日常的な地域との相互関係で成り立っている。今後更に、保育園、学校、地域の行事に参加したり交流を図るなど、利用者が地域とつながりながら暮らしていけるよう取り組まれることを望む。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族または地域の方々などから、介護に関する相談を受けた時には、随時相談にのってさしあげるようにしている。社協主催の施設見学会等受け入れており、認知症ケアについて理解を深められるようにしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容は直ちに職員で共有し改善、向上に努めている。	運営推進会議は、隣接する小規模多機能施設と合同で開かれ、家族代表、地区長、高齢福祉課職員、地域包括職員等参加のもと、2ヶ月に1回のペース行なわれている。	運営推進会議は、地域や市の理解と支援を得るための貴重な機会である。検討事項についての話し合いや、状況報告だけにとどまらず、避難訓練やホームの行事に併せて開催するなど、利用者の状況を参加者に知っていただき、ケアの実情への理解を得られるよう取り組まれることを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ報告、連絡、相談を実施。ご指導に対しては直ちに検討実施できるよう努めている。ホームの5周年祭へのお誘いなど、気軽に訪ね合える関係となるよう、少しずつではあるが取り組んでいる。	市の職員は運営推進会議に参加されるほか、担当者が交代した際は施設の見学に見えるなど、交流が図られている旨うかがった。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所内の研修を通して理解を深め、日常ケアの中でも職員各自が自覚を持って取り組んでいる。	毎年度の研修を通して、職員は身体拘束をしないケアの理解と実践に努められ、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するよう取り組まれていた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事務所内の研修を通じて理解を深め、利用者の身体や精神面に異常が無いが、常に目を配っている。小さな変化であっても報告書を作成し、カンファレンスで風通しを良くしている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内会議において成年後見制度についての研修を行い、理解を深める努力をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書によって説明し、疑問の解消をしている。後日でも問合せをして頂けるようお伝えしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、電話等でご家族からの意見を頂けるようにしている。事務所内の相談窓口をお知らせしている他、自治体、県への相談も説明している。アンケート方式の顧客満足度調査も実施し、運営に反映できるよう努めている。	担当者制により、担当職員が家族との窓口となることで、家族とのコミュニケーションが図られている。家族の満足度調査も行なわれ、結果は会議で話し合われている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で発言の場を設けたり、各委員会で意見交換の報告をしている。個別の面談を設けたり、意見を言い易い環境作りに取り組んでいる。	職員はケア委員会、環境整備委員会、献立委員会などに属したり、毎月の会議やミーティングなどで意見や提案を述べる機会が設けられている。管理者と職員の日頃からのコミュニケーションも図られている様子がうかがえた。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>ステップアップ制度や、個々の実績で昇給があり、それが各自の向上心に繋がっている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>段階に応じて研修受講を進めて実施している。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者の研修を受け入れ、交流の機会を得ているが、サービス向上の為に深い交流を持ちたい。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面接やその後の相談により、安心して頂けるような環境作りを心がけると共に、コミュニケーションを多く取れるように努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面接や相談時に、ご家族の不安や要望をお聞きし、ケアプランに反映されるようにしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居希望の相談時、ご本人・ご家族にとって一番よいサービス方法の1つを提案させて頂いている。</p>		

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	不安の訴えのある時は、寄り添って話を聞いたりスキンシップでコミュニケーションを取っている。季節毎の行事等を一緒に行ない、慣習や料理を教えて頂く等協力しあえる関係築ける様努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の中でご本人が疑問に思ったり困った事、又出来たこと、お話して下さった事をお知らせし、理解を深めて頂けるよう努めている。面会等一緒に過ごして頂ける時間を大切に、共に支援していく関係づくりに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊は制限することなく、出来る限りご家族や馴染みの方との時間を楽しんで頂けるように支援している。	今までの人間関係を断ち切らないよう、利用者の使用できる電話回線を設置し、馴染みの方への電話連絡が自由にできるよう取り組まれている。一人ひとりの生活習慣や、つながりを継続できるような支援に心がける姿勢がうかがえた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ・食事作り等は分担してお願いし、お互いに声をかけ助け合うことで交流を深めて頂けるよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙を差し上げる等、関係を続けるように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望を理解できるよう、寄り添って触れ合える時間を取るよう努めている。カンファレンスを適宜開き、話し合いの場を設けている。	利用者のさりげないつぶやきを書き留めるなど、職員は一人ひとりの思い、暮らし方の希望、意向の把握に努めながらケアを行っていた。意志疎通が困難な方には、家族への確認により情報を得たり、カンファレンスを行い検討している旨うかがった。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより、十分に情報を得て全職員で情報共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態等について、その日のうちに対応できるよう申し送りを行ない、安心して生活して頂けるよう職員全員で協力している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて、本人・家族の思いやケアの内容等、望む暮らしの実現に向け話し合い、ケアプランを作成している。	カンファレンスでは本人や家族の思いや意向を反映できるよう話し合い、受け持ちの職員の意見も参考に、計画作成者がケアプランを作成していた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、特記事項は申し送りにて情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	どのような要望にも、出来る範囲で対応できるよう考慮し、柔軟な姿勢を心がけている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の理解を深め連携が図れるよう努めている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医に月2回訪問診療して頂いている他に、ご家族希望のかかりつけ医には適宜受診していただいている。	事業所の協力医により、月2回の訪問診療を受診でき、健康管理が行なわれている。本人や家族の希望するかかりつけ医へは、家族の付き添いにより受診されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期の訪問診療以外でも、利用者に状態の変化等見られる時は随時連絡相談を行い、必要に応じて診療が受けられるようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、日常の様子等を情報提供している。病院関係者とは、随時相談を行っており、連携を図るようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時、終末期の在り方についてお話を伺うようにしている。重度化した場合はその都度提携医・ご家族と相談し、方針を職員全員が共有するようにしている。	入居の際に、重度化や看取りの対応についての本人や家族の希望を聴取し、できる限りニーズに対応できるよう取り組まれている。提携医のターミナルケアへの理解と協力のもと、看取りの実績があった旨をうかがった。	終末期の対応については、医療連携体制が整っていることにより、本人と家族が安心して納得した最期を迎えられるような体制が構築されている。今後は重度化や終末期の指針や同意書の見直し、職員研修など、更に質の向上に向けた取り組みを期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署から講師を招いて普通救命講習会を実施し、実践力を身に付けられるよう努力している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下、避難訓練を年2回実施したり、防火管理者を中心に火災予防についての話し合いを持つなど、災害対策の意識を高めていけるよう取り組んでいる。災害時における協定書の締結について、現在検討中。	消防署立会いにより、避難訓練が行われているほか、運営推進会議でも話し合いや地域への協力の呼びかけが行なわれている。しかし、2階の利用者の重度化により、避難方法や避難の優先順位などの検討課題があると思われる。	今後も継続して災害時の具体的な方策を昼夜通して検討されると共に、自治会や運営推進会議などで地域の協力体制を呼びかけたり一緒に訓練を行うなど、実践的な取り組みを期待する。また、避難経路の確認や消火器の使い方、備品の準備、緊急時の連絡訓練など日常的な取り組みが望まれる。

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは敬語を使い、本人の尊厳が守られるよう配慮すると共に、一人ひとりの思いを否定せずありのままを受け入れるよう努めている。	職員は、利用者はおお客様であると考え、一人ひとりの尊厳ある姿を大切にしよう言葉掛けや対応に配慮されていた。プライバシー保護の研修や勉強会にも、積極的に参加されている様子が見えた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者がイエス、ノーを言える言葉かけをしたり、思いを伝えやすい環境づくりを心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせて日々過ごして頂けるよう支援している。一緒に散歩に出かけるなど、出来る限り希望に添った対応を心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は定期的に訪問美容院を利用したり、馴染みの美容院に行っている。洋服・アクセサリー等は選んで頂き、好きな物を身につけて頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューに季節のものや利用者の好み・希望を取り入れている。食事の準備・下ごしらえ・片付けが一緒に行なえるようにしている。	訪問当日は、季節に合わせてマツタケご飯のメニューであった。利用者と職員はマツタケの話題で談笑され、和やかな食事風景であった。行事の際は五平餅作りや焼きそば作りなど、利用者が調理に無理なく参加できるような工夫も行なわれていた。	法人の規則により、職員の食材料費の負担や休憩時間等との兼ね合いも課題ではあるが、職員と利用者が同じテーブルを囲んで同じ食事を楽しめる環境作りについても検討されることが望まれる。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容・水分量についてそれぞれに合った管理を行なっている。体調に合わせたメニューに変更する等臨機応変に対応している。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに添った口腔ケアを毎食後行うよう努めている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表やご本人の様子から排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が行えるようご本人に合わせた対応、支援に努めている。	オムツやパットの交換やトイレの誘導は、利用者の自尊心に配慮し、羞恥心や不安を軽減するようさりげない支援がされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトを含めた十分な水分を摂って頂いたり、食物繊維の多い食材をメニューを取り入れる等、工夫をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に添って、出来る限り好きな時に入浴できるよう努めている。入浴剤の使用等気持ちよく入浴して頂けるよう工夫している。	菖蒲湯や柚子湯など、季節にあわせて入浴を楽しめるよう工夫をしたり、相談しながら個別の入浴支援が行なわれている。入浴を嫌がる利用者へは、手浴、足浴をしながら声掛けで入浴したい気持ちを誘うなど、利用者の抵抗感を軽減できるよう支援されている様子がうかがえた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のライフスタイルに合わせ個別の睡眠援助に努めている。寝付けない方は話をお聴きしたり、温かい飲み物を飲んでいただいたり、安眠につながるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局から個別の調剤情報と指導を頂いている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの特技を活かせる場面を、暮らしの中に取り入れるようにしている。月ごとの行事や季節に応じた活動を企画し、楽しく過ごして頂けるよう取り組んでいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて散歩等屋外で過ごせる機会を設けている。ご家族にも協力得て、出来る限り行きたい所に出かけられるようにしている。	ホーム周辺は田畑が広がり、車椅子でも出かけられる散歩コースがあることで、日常的に短時間でも戸外に出て、利用者が生き生きと過ごされている。また、職員の付き添いにより、買い物や地区の植樹祭への参加などの外出支援も行なわれていた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に一括管理させて頂いているが、ご希望により買い物等に出かけ、ご自分でお支払して頂けるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望がある時は、都度ご家族に電話をかけられるように支援している。ご友人に宛てに書かれた葉書きを一緒にポストに出しに行ったりしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに昔懐かしい曲を流したり、季節に合わせた装飾したり、五感に心地よく感じられる環境作りを心がけている。	廊下や居間の壁には、利用者と共に作成した季節の飾りつけが展示され、フロアに流れる音楽に合わせて利用者が歌を口ずさむなど、温もりのある共用空間となっていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで皆と一緒に過ごしたり、居室でゆっくりと過ごしたりと、本人の気分に合わせた居場所づくりに努めている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものや、馴染みのものを持ってきて頂き、居心地の良い居室づくりを心がけている。	居室には、寝具やテレビ、写真、位牌など思い出の品が持ち込まれ、プライバシーを大切にしながら居心地の良い環境になるよう整備されていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立を妨げず、本人の力を活かせる生活環境となるようにしている。		